

第4章 図書館における読書活動の推進

1 図書館における読書活動の推進

(1) 第2次プランにおける取組と課題

【取組】

① 市立図書館と学校図書館との連携

学級文庫、教材貸出等の利用について、学校図書館教育担当教員（司書教諭等）及び学校図書館運営支援員への研修会を実施し、利用の活発化や継続した情報交換につながりました。

② ブックスタートとフォローアップ

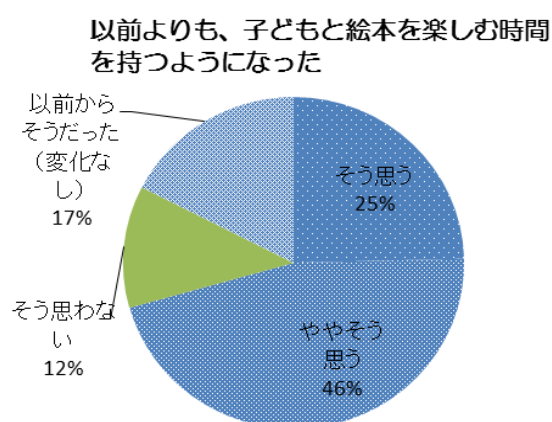
子どもの読書推進において、ブックスタートは、特に重要かつ効果的な事業です。1歳半健診受診者一人一人に絵本を手渡したほか、保健師と連携し、未受診者への訪問配付も実施しました。また、乳児健診時のプレ・ブックスタートや赤ちゃん向け、幼児向けのおはなし会もフォローアップ事業として、継続して進めました。

平成28年度3歳児健診時には、

ブックスタートに関するアンケートを実施し、88パーセントの親子が絵本を楽しむ時間を持っていることが分かりました。

また、乳児健診時の絵本の読み語りやプレ・ブックスタートにより0歳児期からの絵本への関心が高まり、赤ちゃん向けおはなし会の参加者が増加しました。

さらに、図書館員が0歳児向けに選書し「はじめて出会う絵本パック」を作り、0歳児からの図書館利用登録、貸出を推進しました。



③ ボランティアとの連携や育成

ア. 市立図書館の約30団体で構成されたのボランティア団体の定例会に出席し、市立図書館と図書館ボランティアとの相互の情報交換を行いました。

「としょかんフェスティバル」や「おはなし会」、「こどもとこどもの本の講座」など連携して行いました。

イ. NPOとしょかん広場と学校図書館ボランティア、学校図書館運営支援員、図書館ボランティア、図書館員との情報交換や意見交換の場を持ち、相互の連携を深めました。

また、学校図書館ボランティアの勉強会に図書館員が参加し、ストーリーテリングやブックトークを行い、相互の資質向上に努めました。

ウ. 市立図書館ボランティアや学校図書館ボランティアへの情報提供の一つとして、読み語りにおすすめの絵本のリストを配布し、活動を支援しました。

④ 子どもの本に関する講座や講演会の開催

子どもの本の研究者や作家を招いての講演会、自然科学に関する講座や手づくり絵本教室、わらべうた教室や手話講座など様々な分野で、子どもの興味を広げる講座を継続して実施しました。また、赤ちゃん向け、幼児・小学生向け、大人向けのおはなし会も継続して行いました。

⑤ 児童書の整備・充実・活動

児童書の整備拡充については、平成28年度末の蔵書が約21万5千冊であり、5年間で約1万6千冊増加しました。各図書館・図書室の児童担当職員による選書会議を定例的に開催し、市内全域での蔵書の調整、整備充実につなげました。

青少年部門においては、高等学校図書部の生徒と連携し、青少年コーナーの整備や広報紙の発行に取り組みました。

また、「子ども読書の日」に合わせて、「おたのしみ袋」の貸出しや「図書館クイズ」など趣向を凝らしたイベントで貸出しの増加につなげました。

⑥ 図書館員の研修

県主催の実務研修会へ多数の図書館員が参加し、「レファレンスについて」や「出版業界の動きと現在の書店」などについて学びました。また、市立図書館（室）全体で職員研修を実施しました。

⑦ 他機関との連携

県学校図書館研究大会、県高等学校総合文化祭図書部門（ライブラリーフェスティバル）へ講師として、図書館員を派遣しました。また、国立諫早青少年自然の家でのキャンプへ出向き、夜のおはなし会を開くなど連携事業にも取り組みました。さらに、民間団体などと連携し、鉄道模型運転会、ミニ水族館など、様々なイベントを開催しました。

【課題】

市立図書館と学校との連携については、学校図書館教育担当教員と市立図書館員との連携や情報共有などについて検討が必要です。

また、幼稚園等をはじめ、市こども支援課や健康福祉センター、こどもの城など子どもに関わる様々な機関との連携についても具体的な取組を進める必要があります。

さらに、子どもの本に関する催しや活動について多方面への積極的な広報が必要です。

これまでの事業を継続するとともに、さらなる図書館員の質の向上が求められています。



〔ブックスタート〕



〔ボランティアとの連携〕

(2) 今後の方針

子どもへの読書活動の推進は、図書館サービスの根幹を成すものであり、一層の充実を進めます。

読書への関心を高めるため、「子ども読書の日」や夏休み等に様々な催しに取り組むと共に、趣向を凝らした展示を通して本への興味を高めます。

乳幼児に対しては、ブックスタート事業及びプレ・ブックスタートを継続し、実施率100パーセントを目指します。また、フォローアップ事業として図書館ボランティアが行う子育て支援活動の紹介や連携事業に取り組みます。

そのためには、学校及び幼稚園等をはじめ、こども支援課や健康福祉センター、こどもの城など子どもに関わる市機関との連携はもちろん、高等学校図書部や各種ボランティア団体との連携も積極的に進めます。

(3) 具体的な取組

① 児童・青少年コーナーの整備・充実

- ア. 各図書館・図書室の児童担当職員による合同選書会議を継続して実施し、市内全域での蔵書の調整、充実に努めます。
- イ. 乳児期、幼児期等、発達段階に合わせたコーナー作りにより、子どもが自ら選ぶ楽しさを伝え、読書習慣の形成につなげます。また、調べる意欲につながるような展示を工夫します。
- ウ. 児童期から青少年期への継続した読書活動を進めるため、カウンターでの案内やコーナー表示を工夫します。青少年コーナーにおいては、中学生や高校生の参画など10代の感覚をコーナー作りや広報誌の発行に活かします。
- エ. プライバシーに配慮したセルフ貸出機等の設備の充実により、青少年期の読書活動の活性化につなげます。
- オ. 読み語り活動を行う市民に対し、季節行事に関する資料や大型絵本等の貸出を充実させます。また、学校図書館や子どもの文化に関する本を整備・充実させ、子どもの読書活動に関わる人々を支援します。

② 子どもを対象とした講座の開催

子どもの本への興味がより一層広がるよう、幅広い分野の講座や子どもを主体としたイベントを開催し、読書への関心を高める取組を行います。

また、広報誌やホームページ、ソーシャルメディア等を活用し、多方面への広報を積極的に行います。

③ ブックスタートと子育て支援

子どもの読書推進において、ブックスタートは、特に重要な事業です。乳児健診時のプレ・ブックスタートも含め、継続して推進します。

また、フォローアップ事業として、おはなし会を継続実施するとともに、市こども支援課や健康福祉センター、こどもの城、各子育て支援センターや図書館ボランティアとの情報交換を密にし、子育てに関する情報提供やイベントの実施を推進します。

さらに、市立図書館が赤ちゃんとその保護者の居場所となれるよう、図書館員と保護者が気軽に話せるような環境を整えます。

④ 市立図書館と学校図書館との交流

小・中学校に学校図書館運営支援員を配置したことにより、学級文庫や教職員への教材貸出は、利用が増加しています。より活発に利用されるよう、学校図書館の蔵書環境や授業内容に応じた細かな支援を行います。そのためには、合同研修会を通して、学校図書館教育担当教員や学校図書館運営支援員と市立図書館員との情報共有を進めるほか、各図書館・図書室の児童担当職員が計画的な学校図書館訪問を実施し、学校図書館の環境整備のための助言を行います。

⑤ ボランティアとの連携

ア. 定期的・継続的におはなし会やコンサート等の親子向けのイベントを開催し、読書活動の推進と図書館利用の習慣化につなげます。

イ. ウェスレヤン大学の学生と連携し、ビブリオバトルなどの子ども同士で本を薦め合うイベントを開催します。

ウ. 子どもの読書活動に関わる人々の資質向上やネットワークづくりのための機会を支援します。

エ. 子どもや子どもの本の研究者や作家を招いての講演会を開催し子どもの読書活動の理解につなげます。

オ. 図書館ボランティア団体が開催する研修会や勉強会へ市立図書館職員が参加し、相互の情報交換、資質向上により交流を深めます。

⑥ 図書館員の研修

県や日本図書館協会等が主催する研修機会を有効に活用し、資質向上を図ります。

図書館における読書活動の推進【評価の根拠】

■ 図書館要覧

- ① 一人当たりの児童書貸出冊数
- ② 講座・講演会の事業実施状況
- ③ 図書館員等研修状況



〔青少年コーナーの充実〕



〔子どもの本に関する講演会〕